

日時：令和8年2月6日（金） 10:00～12:00

会場：浦和別所小学校 東校舎4階 多目的室東

出席者：学校運営協議会 会長／田島道子（浦和別所幼稚園 園長）  
学校運営協議会 副会長／飯塚雅雄（地元有識者）  
学校運営協議会 委員／小倉弘一（白幡中学校 校長）  
学校運営協議会 委員／大内聡子（民生主任児童委員）  
学校運営協議会 委員／大隈里絵（別所第2自治会 副会長）  
学校運営協議会 委員／小川徳子（浦和別所児童センター 館長）  
学校運営協議会 委員／羽鳥典子（すくさぽ浦和別所 運営委員）  
学校運営協議会 委員／持木信治（浦和別所小学校 校長）  
学校運営協議会 委員／石原裕太（浦和別所小学校 教頭）  
学校運営協議会 委員／松崎靖彦（浦和別所小学校 教務主任）  
学校運営協議会 委員／佐藤恵実（浦和別所小学校 学校地域連携コーディネーター）  
事務局／山田大童（浦和別所小学校 教頭）  
事務局／有隅宏美（浦和別所小学校 事務主幹）  
欠席者：学校運営協議会 委員／難波拓也（浦和別所小学校 PTA 会長）  
学校運営協議会 委員／山崎吉孝（三井住友銀行武蔵浦和支店 支店長）  
学校運営協議会 委員／南 啓員（浦和別所公民館 館長）

\*武蔵浦和義務教育学校開校準備室より

・ワーキングにおける意見等を整備し、分析。

- ① 入札に関する広告日数を44日から110日に延長。
- ② 業者条件を見直し、3社から2社以上とする。
- ③ 発注方法の見直し。
- ④ 予定価格の見直し。
- ⑤ 工期を36か月上限とする。

以上の見直しを踏まえて、令和11年度工事完了を目指している。

・1期のワーキングが先日終了した。現在、2期の参加者を募集中。

・質疑応答

**小倉校長**

Q：令和12年4月には開校できるのか？

A：言及できない。

Q：学区編成はいつ決まるのか？

A：通学審議会が来年度以降の開催となるので、通学区域の決定は未定。学事課とも連携している。

要望：浦和別所小学校、白幡中学校は学区編成によって、児童、生徒の人数が大幅に変わるため、  
教室増減、施設の修繕等が必須となる。学校施設課との連携をお願いしたい。

**大内委員**

要望：自分の住んでいる区域が特定地域であることを知らない人もいるので、周知をして欲しい。

→教育委員会のHPを活用して周知している。

ワーキングに参加しているが、開催日程の通知が遅いので早めに連絡をいただきたい。

1 開会のことば 石原教頭

2 会長あいさつ 田島会長

学校運営協議会への積極的な参加をお願いしたい。

義務教育学校開校準備ワーキングの本部会においても、決定事項が決まらない状況にある。どの協議会でも多角的な意見を述べていただきたい。

インフルエンザが流行しているが、手洗いうがい予防になるので、徹底するよう指導をお願いしたい。

3 校長あいさつ 持木校長

今週は3クラス学級閉鎖があった。

6年生は受験生が多いので休みが多い。

1年生の新しい取組として、保幼小が連携して交流会を実施。また、新入学児童保護者説明会も実施して、来年度の入学準備が進んでいる。

今日の協議会では、来年度に向けての方針について協議をお願いしたい。

4 第3回いじめ防止対策委員会 加勢生徒指導主任による報告

(1) いじめの現状について

6件の事案があり、2件が解消、4件が見守りを実施している。

下校時のトラブルが増えている。

(2) いじめの未然防止の取組について

8つの「浦和別所小学校いじめ防止プログラム」を実施。

① 道徳教育の充実 【実施中】

② いじめ撲滅重点期間（6月）の取組【実施済】

③ 「人間関係プログラム」【実施中】

④ いのちの支え合いを学ぶ授業【実施済】

⑤ メディアリテラシー教育【実施済】 5年生の12月6日参観日に合わせて実施。

「スマホ・タブレット安全教室」

⑥ 保護者との連携【実施中】

⑦ あいさつ週間【実施済】

・校庭改修のため、第4回のあいさつ運動は正門のみで実施。

・地域の方々とも連携して、登校時のあいさつ運動を実施した。

⑧ 縦割り班によるなかよしタイムを昨年度より多く実施【実施中】

(3) その他

生活のやくそくの見直しを実施。今年度は、変更なし。

5 第3回学校運営協議会 (進行：石原教頭)

(1) 令和7年度学校配当予算執行状況 有隅事務主幹

今年度中にパイプ椅子50脚購入、エアコン2台修繕予定。

保護者負担軽減として、紙を配当予算で購入。

年度末に向けて、計画的に、適正に執行している

田島会長：物価上昇に伴う予算配当はあるのか？

有隅事務主幹：児童数が多いので予算に多少余裕はあるが、今後予算執行の3分の2が紙代となるのが、懸念事項である。

田島会長：学校の設備は古いので、エアコンの修繕等は大丈夫か。

有隅事務主幹：児童の健康のために、優先的に修繕をしている。

田島会長：児童の健康を守るためなら、協議会でもお役に立てればと思っている。

(2) 令和7年度すくさぽ浦和別所協働活動状況 地域コーディネーター佐藤

○学習支援ボランティア登録者が著しく増加している。

○モーニング・サポーター活動が定着。朝の登校時、身支度補助だけではなく、登校しぶりの児童対応もしており、担任の負担が軽減されている。また、通学路でのトラブルにも対応しており、大変助かっている。

○地域連携授業における協働活動に関わるボランティア数は、延べ1139名と昨年度より大幅に増加した。

●地域連携授業を全学年で実施予定ではあったが、4年生の授業との連携が実施できなかった。次年度は教員とのミーティングを重ねて、実施を目指したい。

大隈委員：今後も協力していきたい。

羽鳥委員：ボランティア活動に携わる人が特定されている。新規のボランティア開拓が必要。長期継続の視点から、低学年の保護者に呼びかけをしたい。学校が楽しみな子どもたちが多いと実感している。

持木校長：学校側は地域や通学路の様子が分からないので、子どもたちと一緒に登校してくれるモーニング・サポーターの活動に感謝している。

(3) 令和7年度学校評価について

○保護者・児童学校評価アンケートについて 石原教頭

学校生活

低学年の否定的回答の割合が高い。低学年から不登校が増えているので、支援していきたい。

授業（内容）

教員は週1回の研修と教材研究の時間を確保して授業改善をしているが、否定的な児童もいるため、さらなる改善が必要。

授業（個別）

保護者からの評価が低い。保護者への周知が必要。

授業（体験）

児童のおよそ2.5割が否定的な回答。体験的な学習を授業に取り込み、地域の協力を得ながら体験的な学びを増やしていきたい。

読書

教職員、児童ともに否定的評価が高い。カリキュラムマ・ネジメントの充実と絡めつつ、高学年の読書の時間をつくる必要がある。

あいさつ

個人差があり、全体的に定着しているとは言い難い。教職員はじめ大人が手本になる。

いじめ

教職員は真剣にいじめに向き合っているが、その姿勢が児童・保護者に十分伝わっていない現状がある。相談における対応を更に真摯に行う必要がある。

○学校自己評価システムシートについて 持木校長

重点目標の5項目に対する学校自己評価を踏まえて、学校運営協議会による評価を実施した。

1 確かな学力、体力の向上、自立した行動ができる児童の育成に関する評価

羽鳥委員：自由進度学習はいつから取り入れているのか？

持木校長：2年生以上が昨年度から取り入れている。

羽鳥委員：今年度5年生は2学期から導入しているようだが、子どもたちの習熟度や、塾に通っている、いないの違いがあるため、友だち同士の教え合いに格差が生じており、効果を感じられない。

塾に行かないとだめなのかという保護者の不安が募っている。

高学年の授業で、塾に通っていない子たちの取りこぼしのないようにして欲しい。

持木校長：学校としても、手探り状態である。学び合いの指導もしていきたい。

大内委員：ICT授業の発表は、子どもの自己肯定感を高める要素となっている。

2 安心・安全な学校に向けた、子どもに寄り添う生徒指導・教育相談の充実に関する評価

大内委員：児童会が主体のあいさつ運動の「あいさつバトル」とは、どういう活動か？

持木校長：あいさつ運動をしている児童より先にあいさつする取組。

大内委員：家庭におけるあいさつが少ない。保護者同士でもあいさつができる地域づくりのお手伝いをしたい。

3 教育環境の整備と開かれた学校づくりの推進及び家庭並びに地域との連携強化に関する評価

大内委員：学校運営協議会に児童との協働活動を取り入れて、同じ方向に向かっていくことで、大人にも気づきがあった。

田島会長：今回の「110番の家」を周知するための取組から、児童が地域を知り、活動が地域に広まることで、地震等の災害時に役立つ。

持木校長：来年度は中学校と連携して、同日に引き渡し訓練を実施予定。

大隈委員：自治会は高齢化しているので、災害時に頼りになるのは中学生。連携していきたい。

小倉校長：中学校でも防災に熱心に取り組んでいる。総合的な学習を活用し、「防災教育」を行っている。災害時は、中学生の安全が第一であるが、その後に地域貢献として協力していきたい。

佐藤コーディネーター：今年度取り入れた、委員会児童との協働活動は来年度も継続する。

4 安全で清潔な環境の整備による安全・安心な学校づくり

持木校長：校庭改修は3月17日までの予定。

5 教職員の指導力向上と働き方改革の意識の醸成に関する評価

大内委員：AIが普及しているが、学校ではAIについての学びがあるのか？

持木校長：現時点では活用していない。

石原教頭：小学生が使えるAIもあるが、リテラシー教育も含めて活用しなければならない。

小倉校長：中学校は教職員が活用して、働き方改革に繋がっている。

石原教頭：AIを使った学習は、今後研究していく。

田島会長：社会変化が速く、学校の対応も大変な状況だが、基礎教育の定着を目指し、考える力を子どもたちにつけて欲しい。

○令和8年度学校経営方針について 持木校長

○学校自己評価システムシートを活用し、学校運営協議会の意見・要望・評価を令和8年度学

校経営方針に反映することで仮承認を得た。

6 令和7年度まとめと令和8年度に向けて 地域コーディネーター佐藤

令和7年度は学校・保護者・地域・児童による地域学校協働活動として、安全委員会の児童が「子どもひなん所110番の家」についての理解を深める活動を実施した。交通指導員やボランティアの方々と「110番の家」を訪問、インタビューをして、全校児童や地域に周知する取組を学校運営協議会で協議し、ポスター、安全新聞の作成、校内放送での周知を実施することができた。

令和8年度は、他の委員会とのコラボや、「カリマネデザインマップ」を活用した授業での協働活動推進を図りたい。また、現在お試し期間で活動している、Sola るーむ運用支援活動「子ども支援ボランティア 別所っ子サポーター」の本格的な実施も予定している。

7 各委員より

8 事務連絡

卒業式のご案内

9 閉会のことば 石原教頭

○地域の方々を招いた学校給食

学校運営協議会委員と安全委員の児童で交流給食を実施した。